

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	公告方法	当社公式WEBサイトに掲載します。 (http://www.dainichi-net.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
定時株主総会	毎年6月中		
株主確定基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 配当 3月31日 その他必要がある時は、あらかじめ公告します。	株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

お問い合わせ内容	お問い合わせ先	
	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
● 氏名、住所などのご変更 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 配当金の受取方法、振込先のご変更	お取引のある証券会社にお問い合わせください。	※みずほ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
● 郵便物の発送・返戻に関するお問い合わせ ● 未払配当金に関するご照会	※みずほ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。	

※ みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル：0120-288-324 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

第53回定時株主総会決議ご通知

平成28年6月29日開催の当社第53回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告ならびに決議されましたのでご通知申し上げます。

記

報告事項 第53期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）事業報告の内容及び計算書類の内容報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項 第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案のとおり承認可決されました。なお、期末配当金は、1株につき22円と決定いたしました。

第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）9名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、取締役役に吉井 久夫、酒井 春男、花野 哲行、田村 正裕、佐藤 芳明、渡辺 美幸、荏原 裕行、小林 正志、原 信也の9氏が再選され、それぞれ就任いたしました。

以上

ダイニチ工業株式会社
〒950-1295 新潟県新潟市南区北田中780番地6
<http://www.dainichi-net.co.jp/>

DAINICHI

ダイニチ工業株式会社
株主通信

第53期 期末のご報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

証券コード 5951



企業理念 - わが社の方針 -



新しく生み出す技術を核に役立つ製品を開発するとともに、販売してくださる小売店様を大切にし、お客様には長く愛情を持って使い続けていただきたい。

こうした思いは、当社の全ての仕事を支える基本理念となっています。

目次

トップメッセージ	1
当事業年度の業績について	2
お客様の生活を支えるダイニチのモノづくり	3～4
特集 ブルーヒーター 45 周年	5～8
貸借対照表 / 損益計算書 / キャッシュ・フロー計算書 / 株価の推移	9
会社概要 / 株式の状況	10
株主メモ / 第 53 回定時株主総会決議ご通知	裏表紙

Top Message トップメッセージ

当事業年度におけるわが国経済は、アメリカの金融政策の正常化が進むなか、中国をはじめとする新興国経済の減速や世界的な金融市場の乱高下等により業況判断には慎重さが見られたものの、政府や日銀による各種政策を背景に企業収益や雇用情勢に改善が見られ、景気は緩やかな回復傾向で推移いたしました。

主力分野であります石油暖房機器業界におきましては、世界的な原油の供給過剰懸念により灯油価格が下落した一方で、記録的な暖冬の影響を受け、市場規模は前年に比べて縮小いたしました。

こうしたなかにあって当社は、市場や住環境の変化に対応した開発に取り組んでまいりました。

暖房機器におきましては、日本国内の自社工場での生産による迅速な供給力と、安心してお使いいただくための品質保証体制がお客様に評価され、業界内で確たる地位を築いております。

加湿器におきましては、リビングの大型化やビジネス用ニーズの高まりから家庭用としては業界最大の加湿量の 1,800mL/h クラスを投入し、4タイプ 19 機種を発売しました。

第 54 期におきましては、売上高 180 億円（前期比 4.2%増）、営業利益 6 億円（同 61.3%増）、経常利益 6 億円（同 30.2%増）、当期純利益 4 億 10 百万円（同 98.1%増）を見込んでおります。

目標の達成に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月
代表取締役社長 吉井久夫



当事業年度の業績について

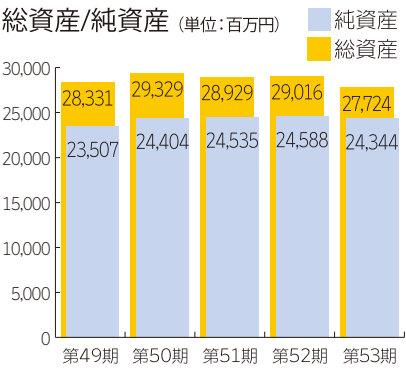
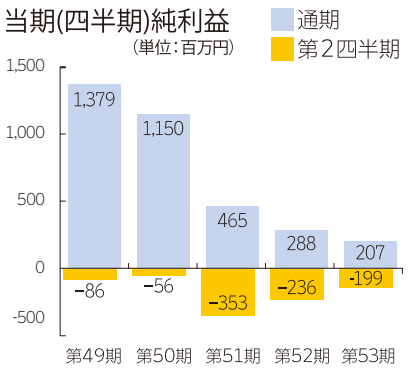
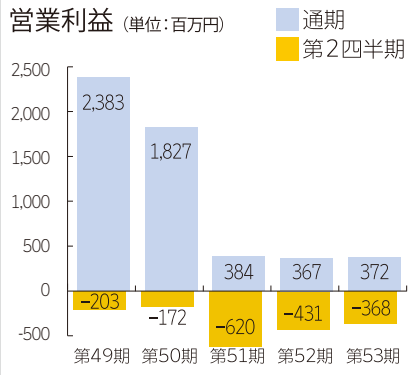
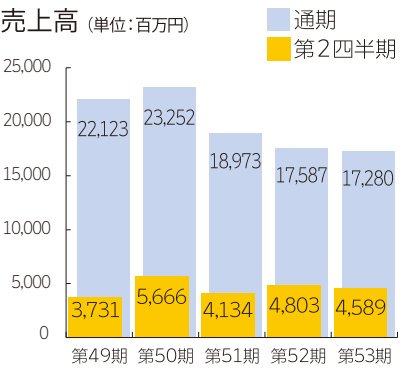
当事業年度における業績は、売上高は 172 億 80 百万円（前期比 1.7%減）、営業利益は 3 億 72 百万円（同 1.3%増）、経常利益は 4 億 61 百万円（同 2.7%増）、当期純利益は 2 億 7 百万円（同 27.9%減）となりました。

次期の見通し

雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果で景気は緩やかな回復に向かうことが期待されます。また、海外経済で一部に弱さが見られており、景気が下押しされるリスクに留意する必要があります。

このような環境のもとで当社は、お客様から信頼され支持されることを全ての活動の基本とし、品質と安全性を重視し重大製品事故を未然に防止する体制の継続に努め、多様化するニーズにお応えしてまいります。また、社内の合理化を進め経営体質改善の取り組みを継続して行ってまいります。

財務
ハイライト



お客様の生活を支えるダイニチのモノづくり

お客様から信頼され支持されることを全ての活動の基本とし、高い品質、使いやすく
便利な機能、安全性にこだわった製品を皆様にお届けしています。

暖房機器

売上高141億59百万円
(前期比3.6%減)

家庭用石油ファンヒーター、 セラミックファンヒーター

デザイン重視のニーズに応え、今まで
にない新規性と魅力あるデザイン SDR
タイプを発売しました。

販売台数シェアも9年連続 No.1※¹ とな
り、圧倒的なご支持をいただいております。

また、新規事業参入したセラミックファン
ヒーターは家庭用石油ファンヒーター
の対震自動停止装置を搭載し、「より安全
性の高い製品」とお客様から評価をいた
だく要素となっています。



環境機器

売上高23億5百万円
(前期比6.0%増)

加湿器

リビングの大型化やビジネス用のニー
ズの高まりから、パワフルモデルHD-151
(1,500mL/h)、HD-181 (1,800mL/h)
を発売いたしました。

また、RX シリーズは従来機よりさらに
静音化し、就寝時により眠りにつきやすい
よう、運転音と表示部の明るさを落とした
「おやすみ加湿モード」を搭載しました。

販売台数・金額シェアは3年連続No.1※²
となっています。



その他

売上高8億15百万円
(前期比11.7%増)

部品・コーヒーメーカー他

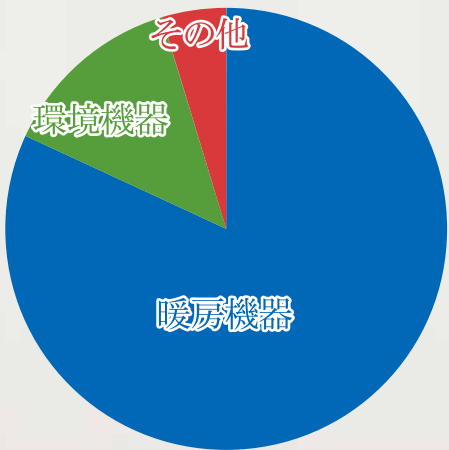
手軽に自家焙煎が楽しめるコーヒー機
器は、愛好家や自家焙煎コーヒー店から評
価され、堅実な販売を続けています。

また、家庭用石油ファンヒーター、加湿
器の別売部品も堅調に推移しています。

別売部品・コーヒー機器はウェブサイト
での販売を行っており、メーカー運営の安
心感や迅速な発送システム、送料無料な
どのサービスも売上の増加につながって
いると考えています。



■主要品目別売上高と売上構成比



品目	売上高	売上構成比
暖房機器 (石油暖房機器・電気暖房機器)	141億59百万円	81.9%
環境機器 (加湿器)	23億 5百万円	13.4%
その他 (部品・コーヒーメーカー他)	8億15百万円	4.7%
合計	172億80万円	100.0%

※1.2007～2015年度 年計(年度=4月1日～3月31日)メーカー別販売台数シェア(シェア数値/2007年度=48.8%・2008年度=59.1%・2009年度=53.3%・2010年度=49.3%・
2011年度=48.9%・2012年度=49.9%・2013年度=53.9%・2014年度=52.6%・2015年度=53.6%) / 全国有力家電量販店の販売実績集計 / GfK Japan調べ
※2.2013～2015年度 年計(年度=4月1日～3月31日)メーカー別数量・金額シェア(全国有力家電量販店の販売実績集計 / GfK Japan調べ)

特集

ブルーヒーター45周年

当社は暖房機メーカーとして実績をあげてきましたが、創業当初は風呂釜やバーナーなど石油燃焼機器を手がけていました。

昭和46年（1971年）7月、「ブルーヒーター」というブランド名がつけられた「FM-2型」が誕生しました。その後45年間青い炎を燃やし続けています。



特集 ブルーヒーター45周年

業務用石油ストーブ「FM-2型」の誕生

当社は、昭和39年（1964年）に創業。初めは比較的製品化が容易で付加価値の高い落差式バーナーを中心に開発をすすめていました。



●気化式石油風呂釜「Hi-S-3B」(左)の釜をはずして放熱器を載せた試作品(右)

昭和46年（1971年）7月、気化式石油風呂釜を改良し、業務用石油ストーブ「FM-2型」が誕生。気化式特有の青い炎の色から、ブランド名を「ブルーヒーター」と命名しました。

当時の石油暖房機といえば、芯を灯油に浸して燃焼させる芯式が中心でした。市場は石油機器メーカーに加え、大手家電メーカーの参入で激しい競争が繰り広げられていました。

その中で、青く透明な炎で燃え、すすやニオイが出にくく、煙突が不要である画期的な製品の登場は、大きな注目を集めました。

その後、毎年改良を加え、販売台数を伸ばしていきました。



●「FM-2型」のカタログ

家庭用石油ファンヒーター「FA-32」の誕生

昭和53年（1978年）、三菱電機様が家庭用石油ファンヒーターを発売し、ネームバリューと当時主流だったFF式よりも低価格である点が受けて、大ヒットとなりました。

この成功を受けて、翌年には家電メーカー・石油機器メーカー各社が一斉に家庭用石油ファンヒーター市場に参入しました。

業務用石油ストーブにおいて、ライバル会社が同様の製品を出し始め競争が激化してきたこともあり、当社も市場の大きい家庭用に参入することにしました。

その後、昭和55年（1980年）、着火スピードが40秒の家庭用石油ファンヒーター「FA-32」を発売。

大手メーカーに真っ向から立ち向かうことになるこの製品は、初年度に7万3,000台の販売実績を上げ、家庭用石油ファンヒーターのメーカーとしての基礎を固めることになりました。

翌年、「月刊消費者（一般財団法人日本消費者協会の機関紙）」が家庭用石油ファンヒーターの買い上げテストを実施しました。

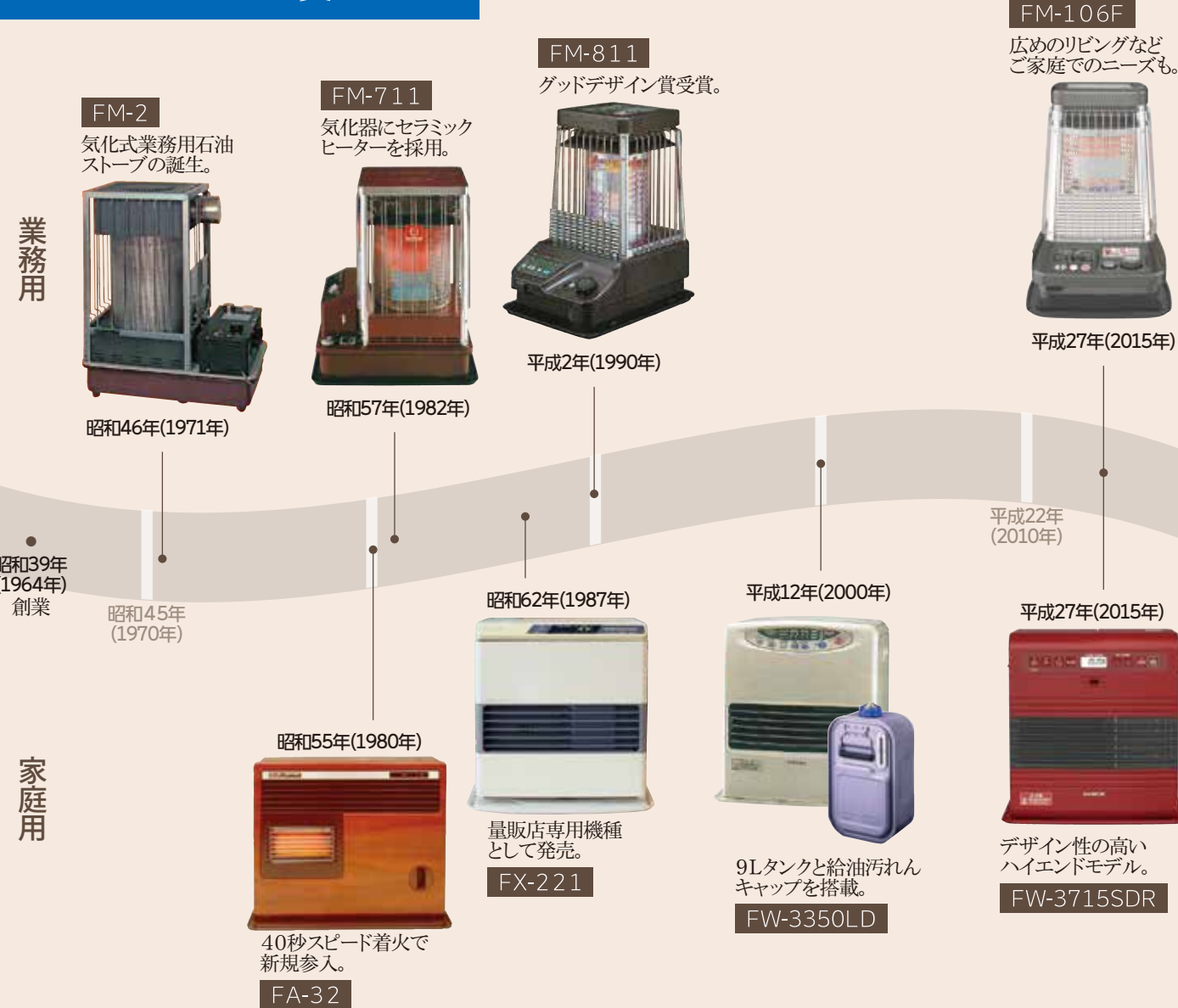
対象となった7社中、「FA-32」は総合評価でAランクとなった2社のひとつに選ばれ、その技術の確かさが実証されました。



●家庭用石油ファンヒーター「FA-32」

特集 ブルーヒーター45周年

ブルーヒーターの変遷



「佐々木名誉会長お別れの会」が執り行われました。

平成27年(2015年)12月24日、創業者であり、ブルーヒーターの生みの親でもある名誉会長の佐々木 文雄氏が95歳で永眠いたしました。

平成28年(2016年)3月3日に、「佐々木名誉会長お別れの会」が執り行われました。

お取引先、業界関係者や当社のOBなど345名の方々より、祭壇に白いカーネーションを手向け、偲んでいただきました。会場内には、当社の足跡を記したパネル、かつての製品群を展示するとともに、メモリアル映像を流し、足を止めて懐かしそうにご覧になる方で溢れていました。

佐々木名誉会長の想いがあってこの世に誕生した当社は、多くの方々に支えられてこれまで発展してきましたが、それを目の当たりにしたような会となりました。このご縁を誇りにして、またこれからの出会いも大切にし、さらなる発展を遂げるよう邁進してまいります。

佐々木名誉会長の想いがあってこの世に誕生した当社は、多くの方々に支えられてこれまで発展してきましたが、それを目の当たりにしたような会となりました。このご縁を誇りにして、またこれからの出会いも大切にし、さらなる発展を遂げるよう邁進してまいります。



●メモリアル映像や歴代製品、佐々木名誉会長とダイニチのあゆみなどを展示し、多くの方に偲んでいただきました。

貸借対照表

	当事業年度 平成28年3月31日現在	前事業年度 平成27年3月31日現在
流動資産	20,086,336	20,472,331
固定資産	7,638,022	8,544,457
有形固定資産	6,350,161	6,881,357
無形固定資産	48,725	72,388
投資その他の資産	1,239,135	1,590,711
資産合計	27,724,358	29,016,789
流動負債	2,543,001	3,142,344
固定負債	837,043	1,285,519
負債合計	3,380,044	4,427,863
株主資本	24,053,720	24,235,351
評価・換算差額等	290,594	353,573
純資産合計	24,344,314	24,588,925
負債純資産合計	27,724,358	29,016,789

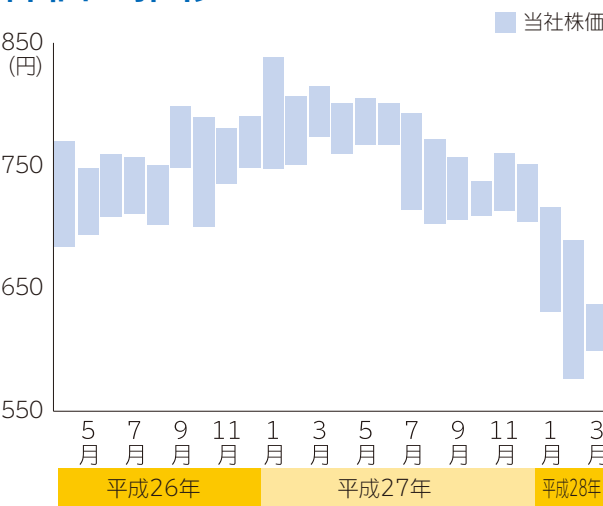
キャッシュ・フロー計算書

	当事業年度 （平成27年4月 1 日 平成28年3月31日）	前事業年度 （平成26年4月 1 日 平成27年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	819,066	1,799,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 604,828	△1,415,704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△389,695	△389,636
現金及び現金同等物に係る換算差額	△826	1,313
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△176,283	△4,659
現金及び現金同等物の期首残高	12,071,759	12,076,418
現金及び現金同等物の期末残高	11,895,475	12,071,759

損益計算書

	当事業年度 （平成27年4月 1 日 平成28年3月31日）	前事業年度 （平成26年4月 1 日 平成27年3月31日）
売上高	17,280,402	17,587,316
売上原価	12,884,436	12,863,455
売上総利益	4,395,965	4,723,860
販売費及び一般管理費	4,023,360	4,355,923
営業利益	372,605	367,937
営業外収益	178,022	168,789
営業外費用	89,323	87,368
経常利益	461,303	449,357
特別利益	34,262	23,475
特別損失	95,517	2,901
税引前当期純利益	400,049	469,931
法人税、住民税及び事業税	21,500	149,000
法人税等調整額	170,921	32,826
当期純利益	207,627	288,104

株価の推移



会社概要 / 株式の状況

会社概要

平成28年3月31日現在

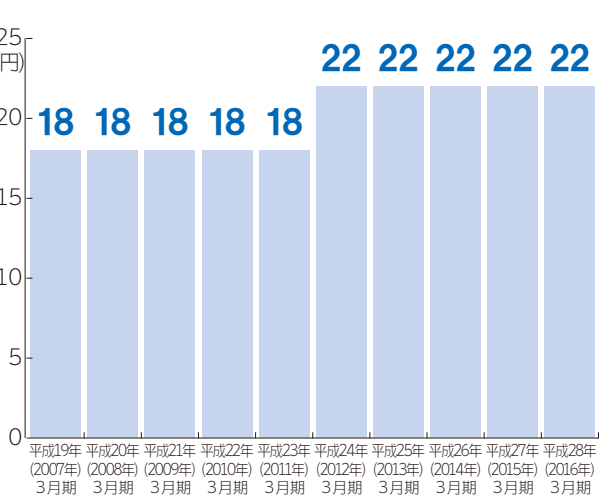
社 名 ダイニチ工業株式会社
英文社名 Dainichi Co.,Ltd.
本 社 〒950-1295
新潟県新潟市南区北田中 780 番地 6
設 立 昭和 39 年 (1964 年)4月1日
資 本 金 40 億 5,881 万円
従業員数 508 名

株式の状況

平成28年3月31日現在

発行可能株式総数 54,767,100 株
発行済株式の総数 19,058,587 株
株主数 4,233 名

1株当たりの配当金の推移



大株主（上位10位）

株主名	持株数 (千株)	持株比率※1 (%)
株式会社ビー・エッチ	1,841	10.41
一般財団法人 佐々木環境技術振興財団	1,440	8.14
株式会社ダイニチビル	1,361	7.7
ダイニチ工業従業員持株会	1,029	5.82
株式会社第四銀行	850	4.81
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	646	3.66
吉井 久夫	570	3.23
佐々木 文雄※2	560	3.17
吉井 久美子	556	3.15
渥美 るみ子	391	2.22

※1 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式 (1,375,101 株)を除いて計算しております。

※2 平成 27 年 12 月 24 日、佐々木 文雄氏は逝去されましたが、相続手続き未了のため、株主名簿上の名義で記載しております。

所有者別株式比率

